
~ IS ~ 『俺が篠ノ之束だけど何か？』

!(b^- °)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～ISS～ 『俺が篠ノ之束だけど何か？』

【Nコード】

N0720Y

【作者名】

！（b^ー。）

【あらすじ】

もしも~~~~~

篠ノ之束が男だったら

作「やべwww俺の頭wwwつける」

主人公設定(前書き)

不定期更新 } (^ 0 ^)

不定期更新 } (^ 0 ^)

そのあとによろしく。(、*)

主人公設定

名前

旧 【篠ノ之 束】

現 【東雲 右京】

容姿

特上中の特上で美形。

髪はピンクで長い

性格

DS

原作ほどではないが他人嫌い

マッドサイエンティスト

正直自分が大切なもの以外どうでもいい。

身長

182?

資格

各種運転免許、各種調理許可証

職業

東雲財閥の総帥

他人の呼び方

知らない人には

君、お前、貴様、餓鬼

大切な人には

あだ名か名前

嫌いな人には

塵、屑、俗物など

主人公説明

ISの発明者で白騎士事件を起こした犯人。

ISの発表により職を失った人達の為に会社をつくった。

よって、原作とは違い恨まれてなどはなく感謝されている。

篠ノ之の姓を捨てて離縁状を叩き出した。

自分が本当に信頼した者にだけ束と呼ばせている。

身体能力も高く素手対ISでも勝てる。

東雲財閥

たった3年で世界の東雲財閥と言われるほどまでなった。

家庭用品から兵器、様々な分野に幅広く携わっている。

世界中に支社があり、本社は日本にある。

主人公設定（後書き）

感想など頂けたらHappyです

第1話 『ダンス貯金よりも床下か天井貯金が良いと思う』 b y 束(前書)

更新……まあ、酷いけど

第1話 『ダンス貯金よりも床下か天井貯金が良いと思う』 by 東

Hei1o、俺の名前は東雲 右京 まあ、気軽に右京様と呼んでくれ。

……………ごめん……………やっぱりやめて。

右京でいいから。本当。マジで。

と無駄な喋りはほつといて

今俺は、IS学園の1年1組にいま……す。

ぱちぱち(^o^) / / ” ” ” ” ” ”

えっ？何でそんなにテンションが高いのだった？

……………そうしないとね

『ジイイイイイイイ』

女共からの視線が痛いんだよ。

何ですか？俺は、あれか？パンダですか？コノヤロー

まあ、俺の席は一番後ろな訳で一番前の餓鬼（一夏君の事ですby作者）よりかは視線は無い。

それよりも今は眠い。今朝の5時まで色々してたからな。

そゆことで、おやすみー（・・・）ZZZZ

「し……めー！」

うーん……（…）ZZZ

「し……のめー！」

ん？……「J」の声は

「ちーちゃ」起きろ！東雲！「ぐはっ！」

俺が起きるタイミングとちーちゃんの出欠簿アタックのタイミングが一致して俺の顔面に当たった。
言っとくけどこれかなり痛いんだよ。

「痛いな〜ちーちゃん」

俺が言つとちーちゃんは教卓の方を指差して言った。

「自己紹介しろ」

「ハイハイ、分かったよ」

俺は、席を立つて教卓に向かう。

教卓に近づくと、俺への視線が強くなる。

はあ……鬱陶しい。

「東雲 右京。趣味は特に無し。将来の夢は世界の人口の3分の1を潰すこと。よろしく」

俺が自己紹介を済ませると山ちゃん（あれ？何時からいた？by東）（最初からいましたよ！by麻耶）とちーちゃんは苦笑いを浮かべと溜め息をついていた。

さあ、始めよう俺の殺「」パァン！「」……おおふ。

「言わせないぞ」

そりゃないぜ、ちーちゃん。

第1話 『ダンス貯金よりも床下か天井貯金が良いと思う』 by 東(後書

感想まっています

第2話 『トイレに隠すのもアリだと思っ』 b y 束 (前書き)

主人公のキャラ崩壊警報発令中!!

第2話 『トイレに隠すのもアリだと思う』by束

HRが終わった後ちーちゃん達は職員室へ戻っていった。

俺も一緒に行こうと思っただけど無理だった。

……あの出欠簿を構えられて言われたら頷く事しか出来ない。

さて、俺こと東雲 右京だが何もこのクラスに知り合いが居ないわけでもない。

あっ！餓鬼共（一夏君と篝ちゃんですby作者）ではないよ。

じゃあ、誰かって？それは――

「わたしだよ」

……ワオ……台詞……盗られた。

オホン……では、改めて俺の数少ない（ここ重要 by束）お友達……布仏 本音だ。

本音は見るからに自分の体のサイズとは合っていない制服を着ている。

俺？黒いズボンにシャツにネクタイそして白衣を着ているけど何か？

「似合っているよ」

うん……分かったから、心を読まないで。

そして、髪を弄らないで。

「はあ……キツいな」

「だろっ〜ね〜」

別に心を読まれる事じゃなくて視線がね。

あの餓鬼、とつとと屋上に行きやがって少しは俺の身になれよアホ。

そう言えば何故あの餓鬼がISを使えるのか話しておっつ。

理由は簡単、俺への注目を逸らすためだ。

相変わらず各国の捜査がウザくてそれを逸らすためにしたのに……アイツめ……。

キンコーンカーンコーン

本音と楯無や簪達の事を話しているとチャイムが鳴った。

「じゃあ、また後でねえ〜」

「お〜っ」

何か気の抜ける様なやり取りをして席に座ると同時にちーちゃんと山ちゃんが入ってきた。

ダーンダーダダーダダー

スパアン！

「がっ！」

「誰がダースベダーだ」

……………流石ちーちゃん……………容赦ないZE。

余談だが餓鬼共が授業に遅れてちーちゃんの出欠簿アタックを喰ら
ってた。

ハハハざまあ () ()

第2話 『トイレに隠すのもアリだと思う』 b y 束 (後書き)

相変わらずの短さ(笑)

第3話 『勝手に俺の名前呼んでんじゃねえよ。薬品漬けにすすぞ b y 東』

相変わらずの酷や(*^o^*)

「・・・で、あるからして、ISの基本的な運用は現時点で国家の認証が必要であり、枠内を逸脱したIS運用をした場合は、刑法によつて罰せられ・・・」

山ちゃんがタウ ページ位あるのではないかと思う教科書を読み上げていく。

あーあ、俺バリバリ引つかかってるよ。
軽く5、6運んだからな。

「織斑君どうかしましたか？」

山ちゃんがさっきからソワソワして目障りだった餓鬼に話しかける。

よく見ると異常な程、汗をかいている。

……………さっきの行動と今の餓鬼の表情から答えを導き出してみよう。

ぼくぼくぼく…チーン

ワカッタヾ(、(、(、)

答えは……………

「(全部わかりません！)」「ほらな) (キラーン

たぶん理由は教科書を読んでないからか……………まさか、捨てたか？

「織斑…………教科書はどうした。確か渡しておいた筈だが。」

「…………捨てました」

「パン！！」

ちーちゃんの出欠簿アタックを喰らって頭を抱えている餓鬼。

「まったく、織斑もう一度発行してやる。1週間以内に覚えろ」

「いや、1週間以内は…………」

「パン！！」

「やね」

「……………はい」

ちーちゃん…容赦ないね。とか思っていたら

「あつ！織斑先生！東雲はどうなんですか？」

餓鬼が俺を指差して言った。

………ツチ。俺の名前呼んでんじゃねえよ。

この際、薬品漬けにしてやろうか……。

「東雲は……大丈夫だ」

「マジか！…じゃあ、俺に……」

ガタン！

俺は餓鬼が言い終わる前に立ち上がる。

ちーちゃんは申し訳なさそうな顔をしている。

…ツチ、ちーちゃんにあんな顔をさせやがって……あーもう無理。

イライラが止まらない。糞餓鬼が……。

「……ちーちゃん……少し用ができたから今日は抜ける。」

「……………ああ、分かった」

俺は教室から出る。

……………今度ちーちゃんの出欠簿、オリハルコンにしよう。

第3話 『勝手に俺の名前呼んでんじゃねえよ。薬品漬けにすんぞ b y 東』

感想など欲しいですなあゝ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0720y/>

～IS～ 『俺が篠ノ之束だけど何か？』

2011年11月5日18時09分発行